

☆2021年4月—6月トピックス

○2021年5月21日 秋田県立大学「ベンチャー企業論」で特別講義

長谷部代表は、昨年続き、同大学システム科学技術学部経営システム工学科のベンチャー起業論(担当教員:嶋崎真仁准教授)で特別講義を行いました。昨年は、オンライン(ZOOM)で130名が参加。今回は、対面形式・ZOOM形式それぞれ1室ずつで合計200名の学生の参加となりました。

講義では、学生に「起業アイデアの創出法」と「アイデアのビジネスモデル化」について講演しました。近年の傾向として、秋田においても卒業後は勿論、在学中から起業を目指す学生も現れております。アーセプトグループでは、その感性を活かしながら、多方面のプロフェッショナル(博士(経営学)、中小企業診断士、公認会計士、税理士、特定社会保険労務士など)がネットワーク企業の皆様(金融機関起業支援担当者、司法書士、弁護士、システムベンダーなど)と強力なアライアンスを形成し、起業家の法人化、経営戦略立案、マーケティング、法務、財務、税務、労務、金融、リーズナブルな会計・給与・販売管理システム導入に関する支援を実践しております。地元経済さらには日本経済のパラダイムの変化に少しでも寄与できるよう、こうした機会を活かしたいと思います。



秋田県立大学本荘キャンパス講堂(嶋崎准教授撮影)

○2021年6月〇日 積水ハウス『TKC 資産活用得本』(2021年夏号)の「スロートーキング (Slow talking)」に投稿しました

同得本は全国のTKC会員(税理士・公認会計士)事務所向けに積水ハウスとTKC全国会の提携活動に関する情報を年4回発信する冊子です。会員自身のワークライフバランスを紹介する「スロートーキング」(巻末連載)で、今回は多趣味と称される長谷部代表が登場しました。「旅」「エッセイ」「俳句」「写真」「水彩画」を取り上げ、著書『天空の聖一芭蕉の旅を巡る一』(アーセプトコンサルティング:2020年)や積水ハウス・積水ハウス不動産営業所内での代表直筆の「水彩画」の展示について写真を交え紹介しました。



◎[積水ハウス『資産活用得本』vol.163,2021年夏号](#)

○2021年6月17日、24日、7月1日 国立大学法人・秋田大学起業力育成ゼミナールの講師を務めました

スタートアップを強力に支援するアーセプトグループを代表し、長谷部代表は、同ゼミナール(担当教員:伊藤慎一准教授)で3週連続の講師を務めました。同大学手形キャンパスで対面形式(7月1日はオンライン形式に変更)にて開催、受講生は、その学部を問わず履修でき、正規の受講単位が認定されます。ゼミナールでは「起業の目的」「起業アイデア創出」「経営環境分析」「経営戦略のフレームワーク」「マーケティング戦略」について、体系的に講義を行いました。参加学生は22名。

起業の目的には、イノベーション、経済的成功以外にも「自己実現」もあります。北海道余市町「北海道エコビレッジ推進協議会」(坂本純科理事長:6月24日スライドにて紹介)のように独立して、NPOを設立するケースが注目を集めますが、企業内においてもCSR活動の一環として、企業内ベンチャー的に「自己実現」を図るケースもあります。後者の事例として、7月1日には(株)マルシメ(秋田県横手市十文字)CSR室の奥ちひろ様にアシスタントスピーカーとしてオンライン形式でプレゼンをして頂きました。